

# 第12回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップin滋賀・京都 みんなで考える“いい川”“いい川づくり”公開選考会 準グランプリ&森清和賞受賞



美しい絵屏風で里山文化を世代間リレーしながら  
さわめく川をつくり続けるで賞

令和元年十月五日〜六日、河川に関わる市民グループや学生が集う「いい川」・「いい川づくり」ワークショップ（主催：いい川・いい川づくりワークショップ実行委員会）が大阪市で開催され、北海道から九州まで三十六団体が出場。水辺や河川の保全・地域交流などの活動を発表しました。山内エコクラブは平成二十一年以来となる十年ぶり二回目の出場。前回と同じ準グランプリと森清和賞のダブル受賞を果たしました。受賞名は「美しい絵屏風で里山文化を世代間リレーしながらさわめく川をつくり続けるで賞」とつけていただきました。



「いい川」・「いい川づくり」ワークショップとは、七月七日の「川の日」の記念行事として一九九八年「川の日」ワークショップとして全国の活動家、有識者、行政の声をかけて始まったのがスタート。今年で通算二十二回めです。生き物を育み、地域や私たちを支え

てきたかけがえのない川・私たちにどう  
て「いい川・水辺」とはどんなこと  
なのかを自由に柔軟に探るワークショップ  
「いい川・水辺」とはどんなこと  
なのかを自由に柔軟に探るワークショップ  
「いい川・水辺」とはどんなこと  
なのかを自由に柔軟に探るワークショップ

二日間にわたる公開選考とは以下の  
ような流れになります。  
一日目(コラボ滋賀)  
**全体発表会**  
全参加団体が活動発表  
三十六団体が三分間で活動を発表し  
ます。面白いパフォーマンスもあり。

**テーブル選考会**  
十四の入選団体を決定  
七つのテーブル(部屋)に分かれ、  
コーディネーター、コメントーターか  
ら発表者に直接質疑、コメントをい  
たしながらテーブルごとに二団体が選  
出されます。  
二日目(ヒアザ淡海)  
**復活選考会**  
四の入選団体を決定  
テーブル選考会で選外となった団体  
が、ポスターセッションにてキラリと  
光る活動をアピール、投票で上位四団  
体が全体選考会への出場権を得ます。

**入選者発表会**  
十八の入選団体が活動発表  
テーブル選考(一次選考された)十  
四団体と復活選考で推薦された四団体  
が入選者として、全体会場で三分間の  
発表を行います。

**全体選考会**  
九の入賞団体を決定  
入選者の発表を受け、「いい川いい  
川づくり」の評価を明らかにしながら  
複数のコメントーターが投票し、公開  
討論会への団体の絞り込みをします。  
今年九団体が入賞となりました。

**公開討論会**  
グランプリ・準グランプリ・特別賞  
の決定  
全体選考会で選出された九団体から、  
グランプリ、準グランプリ、特別賞な  
どを、会場の議論も交えて公開で選考  
します。会場からの応援コールも飛び  
交います。

いい川(河川力) いい川づくり(地域力) 評価のものさし

いい川(河川力)	
①川の状況(水質・水量等)の維持・向上に努めている	水質保全
②生き物の多様性が保たれている	生物の多様性
③その川らしい姿の河川の環境整備・保全・再生	技術体系
④地域の資源が生かされ川と人がともに生きる状況	地域共生
⑤優しい人間的感情を引き出す空間がある	原風景
⑥自然とともに人の心を和ませる風景がある	自然景観
⑦人と川と生き物の間にダイナミックなかかわりがある	関係の多様性
⑧子どもが楽しく水遊びができる場所である	遊び環境
⑨美味しい水・うまい魚等川の恵みがある	食文化
⑩治水・安全と環境・風景が両立している	総合性
いい川づくり(地域力)	
①川の美しさと柿さを次世代に伝える文化活動	次世代継承
②記憶や思いを呼び覚ますソフトな活動	住民関心
③散歩や癒しなど暮らしの中に生かされている	日常生活
④レクリエーション、表現の場になっている	非日常的楽遊
⑤環境学習、体験の場になっている	環境学習
⑥祭り、民俗芸能、信仰が生かされている	文化環境
⑦住民が川普請や川づくり活動に参加している	住民参加
⑧川の再生・育成に各主体が情熱を分かち合っている	協働活動
⑨川をめぐる多様な主体の調整の仕組みがある	合意形成
⑩流域連携・情報発信・防災・福祉教育・地域経済連携	地域づくり
⑪川や水へのかかわりの表現、新たな文化	価値共有
⑫住民、行政も調査能力、調整能力、政策能力の育成	市民社会河川学

森清和賞とは、故森清和氏は、  
水環境研究者であり、一九九八年  
の川の日ワークショップの創設者  
でもおられました。氏を記念して、  
多くの仲間たちに共感と希望を与  
える活動や川と真剣に向き合う勇  
気とやさしさにあふれた活動に  
「森清和賞」が授与されます。

山内エコクラブは、地域で取り組  
んだふるさと絵屏風に描  
かれる「川」に着目しま  
した。  
評価された点は、  
①七十年前の川の様子や  
水辺の暮らしを古老から  
聞き取りそのイメージ絵  
屏風にしたこと。  
②今の川の様子や生き物  
の様子を把握したこと。  
③昔と今の比較を通して、  
水を大切にしていた思い  
や工夫を環境学習に生か  
していること。  
④子供や研修生を対象に  
した自然観察会とエコツ  
リズムを行い、(水と暮  
らし・食文化)地域の高  
齢者を元気にしている。  
⑤今でも「アカザ」「ア  
ジメドジョウ」などの希  
少種のある川を大切にす  
るために、保護区域とし  
て提案しようとしている  
⑥十年前に「いい川いい  
川づくりワークショップ」  
で出場した当時の小学生  
が山内の水文化継承に継  
続して関わっていること

**ふるさと絵屏風を中心に活動を発表  
地域の記憶からたどる豊かな川づくり**

公開選考会や全体討論会でも朴  
淑氏や嘉田由紀子氏、青田朋恵氏  
北井香氏から山内の現状を踏ま  
え、中での活動に感謝の言葉を  
いただきました。感謝！  
十年前の同ワークショップで、  
ギナズラックで準グランプリと  
森清和賞をいただきました。事  
上の活動のスタートがこでした。  
今回も同様にダブル受賞。  
弱小クラブが続けられているのは、  
地域の方々の協力があってこそで  
す。これからも地域の方の思いに  
寄り添い、誰もが活躍できる場所  
づくり、機会づくり、そして元氣  
づくりにつなげていこうと思いを  
新たにしました。